

学生の持つ「学校教師」のイメージ

The images about “school teachers”
—the case of the students in a teacher-training college—

市川 純夫 (教育学教室)

I 研究の目的

教師の力量の高まりは、教師が教師という自分の仕事をどのようなものとしてとらえるかの深まりとしても、とらえることができよう。したがって、その教師の成長の過程を、教師という仕事のとらえ方の発展の過程として研究していく視点で、教師研究を進めることができる。

他方、教師の成長の過程は、教職に就いてからの期間、教職に就く前の教員養成の期間、そしてさらに教員養成の過程に入る前の期間の3期間に分けて考えられる。

そこで、本研究では、この視点からの教師研究の一つの作業として、教員養成の過程にある者（教師という仕事を志望している者）の持っている教師イメージの特性をつかみ、その彼らの中にある教師という仕事のとらえ方の構造を探る。また、そのイメージがどのような学校体験、教師体験からきているのかを考察し、教師としての力量形成のためにどのような働き掛けをしたらよいかという教員養成教育の課題を見いだせればと考える。学年ごとの教師イメージの違いをも掴み得れば、教員養成教育の中での学生の成長の様子もうかがい知ることができるであろう。

教師の教員養成あるいは現職教育については論及されることが多いが、教師を志望して教員養成の過程に入ってくる前のことは、教師の力量形成にとって大変重要な意味を持つにも拘わらず、研究の対象とされることが極めて少ない。そこにふれた数少ない研究のうちの一つ「教師のライフコース」^(註1)に描き出されているこの期間の思い出の中では、教職にある家族あるいは親戚などの影響を強く受け、それ故の動機、反発が強くなるか、また恩師の影響による自己形成が色濃く見られること、また彼らを取りまく文化環境が高いものであること（この研究が長野という教育先進県を対象にしていることともかかわるであろうが）、などにあらためて驚かされる。

現在教員養成の過程にいる学生の教師という仕事のとらえかたには、こういった影響とともに、実際に自分が出会ってきた教師達から作りあげてきた教師一般のイメージがあり、また、これだけ世間、マスコミが教師問題、教育問題を取り上げて論議する状況の中で、そこからかなりの影響を受けて教師イメージをつくらざるをえないということも考えられる。それらの影響要因を分析することは、かなり困難な仕事になることが予想されるが、本研究ではとりあえず、教員養成の過程にある学生達が持っている教師についてのイメージをとらえ、その背景を考察するという作業に踏み出してみようとする。

II 調査研究の概要と結果

本研究では、学生が教師という仕事をどのようにとらえているかということを見るために、とり

あえず教師についてどのようなイメージを持っているかを調べることにし、その方法としてメタファ（隠喩）表現による調査を試みた。

この隠喩法は、教育研究の分野では、小沢有作が「学校メタファ」調査として初めて試み^(註2)、その後数人によって用いられている。子ども、青年の学校体験、教師体験が隠喩の形でリアルに浮かび上がる、というのがこの方法の趣旨であり、小沢の場合、子どもにとっての学校の抑圧的姿が悪口メタファとしてはっきりと描き出されるとされている。ここでこの方法の有効性について厳密な論議はできないが、この方法を用いる理由として、一つは、この方法による教師メタファの調査研究が他の大学においてなされ、興味ある結果と考察がなされており^(註3)、その結果を参照して比較研究することができるということ、またもう一つには、結果からの理由付けになるが、この方法での調査によって一定有効な分類・分析可能な教師像イメージが得られたということが挙げられる。また、この調査は、授業の時間を利用して手軽に行えるということ、教育学概説の私の講義の時間に行えば、各学年にわたった資料が得られ、学年比較も可能であること、経済学部生も受講しており、他学部学生との比較もできるということなど、幾つかの利点があったことも、この調査を行わせた要因であった。

調査用紙記入は、1990年4月、教育学概説の最初の授業時に行われた。回答した学生は、教育学部1回生36名、2回生34名、3回生37名、4回生以上7名、経済学部生20名の計134名であった。

質問紙は、次のようなものであった。

- 1 「学校は……だ」、「学校は……みたいだ」、「学校は……のようだ」という形で、思いついたことは何でもいいから「……」のところに記入して下さい。そして、できれば、一つひとつの作品のあとに、そうである「わけ」を簡潔に書いて下さい。
- 2 次に、上と同じように、「先生は……だ（ようだ。みたいだ）」と作り、「わけ」を書いて下さい。
- 3 また、次に、「勉強は……だ（ようだ。みたいだ）」「教科書は……だ（ようだ。みたいだ）」と作り、「わけ」を書いてみて下さい。
- 4 その他、教育に関して「……は……だ（ようだ。みたいだ）」と、いろいろ自分で作って、書ければ、その「わけ」も書いて下さい。

以下に、「先生は……のようだ」の項目の回答だけを、各学年に分けて全て書き出してみる。書き出す順序は、一応私なりに判断して、「教師を肯定的に見ている作品」「否定的に見ている作品」「そのどちらとも言えない作品、あるいは客観的に記述している作品」の3種類に区分し、その順に……線で境界を作って並べた。また、一人で複数の作品を作ることも自由にしたので、回答者数と作品数は合わない。

先生は……のようだ	そのわけ
<p>教育学部1回生(36名回答)</p> <p>1 先生は、鳥の母親のようだ。</p> <p>2 先生は、人間だ。</p> <p>3 先生は、水のようだ。</p> <p>4 先生は、空気のようだ。</p> <p>5 先生は、学ぶことの楽しさを教えてくれる人であり、自信を与えてくれる人だ。</p> <p>6 先生は、生徒にとって、人間としての見本だ。</p> <p>7 先生は、道しるべであるべきだ。</p> <p>8 先生は、万年子どもみたいな人だった。</p> <p>9 先生は、先輩だった。</p> <p>10 先生は、影響が大きい。</p> <p>11 先生は、応援団のようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を一生懸命育て、はばたかせなければならないから。 ・当たり前的事かもしれないけど、先生も生徒も人間だから、ぶつかり合って人間として成長していくと思うから。先生を先生として見るよりも、人間として見た方が、本当の教育ができると思う。 ・私には、なくてはならない人だから。 ・あっても気にならないけど、なかったら困るから。 ・高校の時にいい先生が多かったのでこう思うようになった。自信をなくしている時には励ましてくれて、解らない問題は理解出来るまで根気よく教えてくれる。私は絶対塾の先生より学校の教師派です。 ・先生の人間性にひかれるところがあるから。 ・生徒の軌道を修正し、いい方へもっていく役割を果すことが大切だと思う。 ・いつも冗談を言っていて、自分に目的があって、きらきらしてたから。 ・これは私の恩師がおっしゃったことですが、子供が何かをしようとするに対して声援を送ることが大切だ、ということ。
<p>12 先生は、身勝手だ。</p> <p>13 先生は、いいかげんだ。</p> <p>14 先生は、独善者、偽善者だ。</p> <p>15 先生は、コピーみたいなものだ。</p> <p>16 先生は、ラジオのDJのようだ。</p> <p>17 先生は、遠い存在のようだ。</p> <p>18 先生は、ロボットのようだ。</p> <p>19 先生は、辞書のようだ。</p> <p>20 先生は、林家ペーの落語のようだ。</p> <p>21 先生は、事務員みたいだ。</p> <p>22 先生は、計算機だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の腹の虫が悪いとき、生徒に当たり散らす先生が何人かいた。 ・「生徒のため」を思って色々おせっかいをやいてくれる。教頭や校長の前になると、急に張り切り出すやつとか。 ・最近は、自分の信念を持って教えていく先生が少なくなり、教科書通りの授業ばかりをする人が多くなってきた。 ・一人で楽しくしゃべってる。 ・しゃべりづらいから。 ・決められたことだけをやっている。上には、逆らえない。 ・知識のa～zまでの配列で教える。 ・思わずあくびがでる。 ・数字によってのみ生徒を判断し、仕事としてわりきっている。 ・途中の過程を重視せず、答え・結果ばかりを教えようとする。

<p>23 先生は、天気のようにだ。</p> <p>24 先生は、勝手だ。</p> <p>25 先生は、1週間前の肉饅だ。</p> <p>26 先生は、盲目の人のようだ。</p> <p>27 先生は、くじのようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌のいい日はいいが、機嫌の悪い日は、何をしてもおこられてしまう。 ・自習の時間に他の先生の授業を入れたりしていたから。 ・内部からくさってきているから。 ・生徒達の気持ちが案外見えていないし、公然と行われているいじめにも気付かない(ふりをしている)から。 ・めったに当たり(尊敬できる)先生がいない。
.....	
<p>28 先生は、権力だ。</p> <p>29 先生は、人格製造工場のオートメーションマシンだ。</p> <p>30 先生は、かわいそうだ。</p> <p>31 先生は、人間だ。</p> <p>32 先生は、嫌われやすいようだ。</p> <p>33 先生は、めがねのようだった。</p> <p>34 先生は、軽自動車のようだ。</p> <p>35 先生は、いい人もいれば悪い人もいた。</p> <p>36 先生は、苦労人の集まりだ。</p> <p>37 先生は、空気だ。</p> <p>38 先生は、電卓のようだ。</p> <p>39 先生は、社会の理想と人間の理想の板挟みになっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学問において生徒より優れ、自分の思うままにできるから。 ・生徒の人格が変わって行く最も大きな要因は、先生の姿だと思うから。 ・高校とかの先生は、自分の好きな分野とか、もっとバラエティに富んだ授業をして、心に残るようなものにしたと思って、受験のために、予備校的な授業しかできないから。 ・間違いがあるから。 ・友達もたいてい嫌っている。 ・視力を矯正するように、私の性格を変えてしまったから。 ・少しのガソリン(給料=燃費・・安い)でよく走る。 ・一人で多くの生徒を見なければならぬし、何かあればすぐに批判されるから。 ・大切な存在だけど、あんまり生徒から大事に思われない。 ・きれいに生徒に数字(通知票)をつける。
.....	
<p>教育学部2回生(34名回答)</p> <p>1 先生は、辞書みたいだ。</p> <p>2 先生は、木の枝(幹)だ。</p> <p>3 先生は、消しゴムみたいだ。</p> <p>4 先生は、もう一人の保護者だ。</p> <p>5 先生は、ベビーシッターみたいだ。</p> <p>6 先生は、鉱山で働く人のようだ。</p> <p>7 先生は、店員のようだ。</p> <p>9 先生は、生徒の第2の親のようだ。</p> <p>10 先生は、方位磁石だ。</p> <p>11 先生は、サラリーマンだ。</p> <p>12 先生は、ダイヤモンドみたいだ。</p> <p>13 先生は、母親だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでも知っているから。 ・先生という幹がしっかりしているかしていないかによって、その木の枝につく葉(生徒)もかわってくるから。 ・一生懸命働いて、生徒達の間違いを正そうとするから。 ・少なくとも小学校のうちは、そう思えるものだと思う。 ・他人の子供を一生懸命世話するから。 ・生徒のいいところを掘り出していくから。 ・客のわからないところを説明するから。 ・いろんなことを教えてくれるから。 ・正しい方向へと導く。 ・事務的だから。 ・かたくて融通がきかない。 ・口うるさい。

14 先生は、産業ロボットみたいだ。	・毎日毎日、同じことを無気力に繰り返して、何の変化をも起こそうとしないし、その努力も見られないから。
15 先生は、勝手だ。	・先生というのは、生徒一人一人にたいして、平等でなければならないはずなのに、そうでない事が多い。
16 先生は、権力者だ。	
17 先生は、モデルなどのスカウトマンのようだ。	・生徒が何を考えているのか、心の奥を知るのではなくて、表面的にみたままで、成績も、点だけでつけるような気がするから。
18 先生は、警察のようだ。	
19 先生は、あやつり人形のようだ。	・この場合、小・中学校の教師が適切だが、学校の上の者、学校を支配する者や、文部省の命令どおりの行動しかとれないから。
20 先生は、人形師のようでもある。	・教師は、生徒の個性を無視してしまって、拘束して、団体（クラス単位）をあやつっているように思える。
21 先生は、警察官のようだ。	・あまりお近づきになりたくない。なると周囲から不審の目で見られる。
22 先生は、頭の悪い政治家のようだ。	・自分達の「常識」を押し付けて、それがすでにゆがんでいることさえも分かっていない。自分の意見を言うので手いっぱい、生徒の言葉に耳を傾けようと思わない。「学校」という小さな集団社会の中の支配者の気分なのだろうか。
.....	
23 先生は、テレビのようだ。	・情報も与えてくれて、時にはこちらと交流もあるから。
24 先生は、十人十色だ。	・生徒のことを本当に考えている先生とそうでない先生がいるから。
25 先生は、学校版教育ママだ。	・そういう先生ばかりではないことはもちろんだけれど、いろいろな点でガミガミといってくる。でも、それは、両親と同じように、生徒のことを思っているからだと思う（そうであってほしい）。
26 先生は、ちり紙交換屋さんのようだ。	・生徒の1日1日の時間というものと、先生の知識というものを交換しているから。たくさんもってくる生徒にはたくさんのも（知識）を与えるし、そうでない生徒にはそれなりにしか与えない。
27 先生は、すもうとりのようだ。	・体当りでぶつかってきてくれたりするが、逆にそれでこけることもある。
28 先生は、リゲインのようだ。	・自分の子供でもないのに、24時間戦わなければいけないから。
29 先生は、戦士（兵隊）のようだ。	・なりたいようでありたくないし、やっぱりなりたくないかな。
30 先生は、宝くじのようだ。	・どの先生にあたるかによって、授業の良しあしが決まってしまう、それは、授業を受けてみないとわからないから。
31 先生は、わりにあわない職業だ。	・教師という職業は、人間相手であるが、その分非常に精神的にもしんどい仕事なのに、案外安月給だから。
32 先生は、ソンド。	・安月給なのに、一生懸命にやってあたりまえみたいなところがある。

<p>33 先生は、教室で授業をする人だ。 34 先生は、忙しい人だ。 35 先生は、人のお手本だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をするから。 ・なにかと忙しそうにしているから。 ・良い先生もいれば、あまり良くない先生もいる。尊敬し、見本としたい先生もいれば、まねたくない先生もやはりいる。
<p>教育学部3回生(37名回答)</p> <p>1 先生は、天使だ。 2 先生は、えらい人だ。 3 先生は、カウンセラーであるべきだ。 4 先生は、クレープのようだ。 5 先生は、太陽のようだ。 6 先生は、生徒のために、色々といへんだ。 7 先生は、アンパンマンのようだ。 8 先生は、家族のようだ。 9 先生は、灯台だ。 10 先生は、人生のヒントを与える一人だ。 11 先生は、兄(姉)のようだ。 12 先生は、芸術家だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出来が悪かったにもかかわらず、義理と人情を成績に表してくれた場合。 ・やはり、先生とは、僕にとっては、尊敬できる人であった。 ・生徒と気持ちを理解し、高めていく。これが本来あるべき先生の姿ではないだろうか。 ・無くて済ませるように思えるが、実際は、全体として完全に均整をとるには、やはり無くてはならないものであるから。 ・いつも生徒に暖かいまなざしを注いでくれる。 ・自己犠牲を強いられているから。アンパンマンは他の人がおなかをすかせていると自分を食べさせるから。 ・休憩時間なども、教室でいてくれて、いっしょに過ごす時間も長かったし、よく生徒のことを把握してくれていた。 ・教師の生徒に与える影響は、はかりしれない。権威者ぶるのではなく、生徒の位置を教えてやったりしてやるべきだ。(もちろん進んで行って選ぶのは、生徒自身だ。) ・先生に影響をうけて、道を選ぶことも少なくないから。しかしそれが必ずしもよい影響とはいききれない。 ・親とは違った意味で身近であってほしいから。
<p>.....</p> <p>13 先生は、「先生」だ。 14 先生は、やはりサラリーマンだ。 15 先生は、宝クジのようだ。 16 先生は、ミスター・マリックのようだ。 17 先生は、海部首相のようだ。 18 先生は、鬼のようだ。 19 先生は、半分くらいはアホだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生」とみんなに呼ばれるせいか、自分が偉いと思っている先生が多い。 ・教育に情熱を燃やすような先生は少ないと思う。 ・大当たりはなかなか無い。 ・後はハンドパワーで決める。(もちろん、そんな人ばかりではないが) ・一見、自分の意志で行動しているように見えるが、実は裏で、国や教育委員会に、上手に操られている。 ・成績を至極冷静につける。そこには一片の情も入らない。 ・最近、ドロボウする先生や生徒にいたずらする先生が多い。生徒の増加のため、なんでもかんでも採用してきたつけが回ってきたのだろうか。一般的にもそうだ

20 先生は、テープレコーダーのようだ。	が、立場を考えない輩が多すぎる。
21 先生は、公務員だ。	・毎年同じことを言う。
22 先生は、工場の作業員のようだ。	・正にこれは事実であるが、適当に仕事して、金をもらえればよいという教師も、現実には多いような気がする。
23 先生は、探偵だ。	・私達、生徒は小学校からずっと、教育者の意にかなう人間につくりあげられ、世の中におくりだされる。かなわない生徒は、簡単に廃棄処分される工場。
24 先生は、刑事ドラマの取り調べ官のようだ。	・他人のプライベートな部分にまで入って来る人が多い。(特に中学)
25 先生は、警察官又はヤクザのようだ。(中学校)	・何故なら、個室で殴る蹴るの暴行を加え、相手の言う事に耳をかさない。
26 先生は、ジェットコースターだ。	・権力や暴行でもって生徒を押さえ付けようとする。
27 先生は、いくじなしだ。	・誰が叫ぼうと終点まで止まってくれない。
28 先生は、宇宙人ようだ。	・生徒の中にすぐく反抗する人がいても、知らないふりをしたり、自分一人では何もできない先生が多いように思えるから。
29 先生は、知識の塊だ。	・何を考えているのかわからないから。(教師という職業をまるで事務職のようにこなしてしまう)
30 先生は、二面性をもっているようだ。	・先生は、ティーチングマシンである。現代社会の合理主義、唯物主義に基づいた、子どもたちへの知識注入者以外の何者でもない。
31 先生は、国会議員みただ。	・たてまえと本音が大きく違う。
32 先生は、軍隊の隊長だ。	・偽善者のように、口だけきれいなことを言うから。
.....
33 先生は、忍耐のかたまりのようだ。	・学校は軍隊と同じで、先生は隊列をみださず、足並みをそろえることに必死であった。
34 先生は、人間だ。	・授業中、あれほど騒がしくしていても、ものともせず話しているから。
35 先生は、マルチタレントだ。	・先生といえども、個人的感情を持っている。
36 先生は、芸能人のようだ。	・すべての事に詳しくなくてはならない。
37 先生は、単なる人のようだ。	・うまくやっていくのがむずかしい。
38 先生は、不完全なピエロだ。	・裏も表も見えてしまえば、そのようにしか思われない。
39 先生は、調味料のようだ。	・生徒という恋人に受け入れてもらおうと努めるが、受け入れられず、それでもって、相手を幸せにしてやることもできない。
40 先生は、半分赤の他人、半分身内。	・何故なら、使い方によって良くも悪くもなる。
41 先生は、空気のようにだ。	・いるかいないかわからない。何にも生徒にやってない。でも、いなくてはいけないのです。
42 先生は、まじめにやればやるほど孤独になるようだ。	・本当に真剣に考え、実行すれば、迫害される。
43 先生は、なるのが困難だ。	・採用数が少ない。
44 先生は、大変だ。	・自分も先生になろうと思っている。将来大変だろうなと思って。

<p>45 先生は、かまきりのようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学の時影響を受けた先生が、かまきりに非常に似ていた。神経質の上に、線が細いようで、なかなか譲らないがんこ者だった。（先生という職業についている人によくあるタイプ。）
<p>教育学部4回生以上（7名回答）</p> <p>1 先生は、聖職だ。</p> <p>2 先生は、聖職だ。</p> <p>3 先生は、ろうそくの火のようだ。</p> <p>.....</p> <p>4 先生は、社会人ではない（または少ない）ようだ。</p> <p>5 先生は、横暴だ。</p> <p>6 先生は、ヒラメだ。</p> <p>7 先生は、キョンシーだ。</p> <p>8 先生は、芸人だ。</p> <p>9 先生は、解体寸前の車みたいだ。</p> <p>10 先生は、ヘビだ。</p> <p>11 先生は、調教師だ。</p> <p>12 先生は、神様ではなくなったようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬いという意味ではないが、子供たちに大きな影響をあたえるという意味で考えると、聖職だ。 ・私の経験では少なくともそうであったし、そうありつづけて欲しいという希望。 ・生徒の心に火をつけていく。 ・現世から取り残され、新聞・本も読まず、人間観察もよくせず、唯毎年同じことを繰り返し、怠惰な日常を過ごし、子供のままの我がままを張り通す人が多く、社会人とよべる先生は極く少数派であった。 ・学校という枠のうちでは、先生の天下であり、彼のやりたいようにやっている感じがするから。（特に大学では） ・上（出世）ばかり見ている。 ・魂が抜けている。 ・笑いをとる事に命をかける。 ・いつも、教育行政側、父兄側、生徒側から圧力を受けてもおかしくない立場にいる。 ・先生に、じっと目を見て質問されると、私は、ヘビににらまれたカエルのように硬直して（上がってしまつて）、質問に答えられなかったという幼い頃の思い出があるから。 ・今私が勉強を教えている子の経験ですが、暴力というムチでたたきのめし、反抗しようものなら、警察というもので銃殺するような教師がいる。 ・お金を得るためだけに教師をしている。
<p>経済学部（30名回答）</p> <p>1 先生は、こんぶ又はいりこのようだ。</p> <p>2 先生は、お父さんみたいだ。</p> <p>3 先生は、サンドペーパーだ。</p> <p>4 先生は、第二の親だ。</p> <p>.....</p> <p>5 先生は、楽だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は自分の持っている知識や経験を、こんぶがだしを出すように、できるだけ出して、生徒に与えてあげようとするから。また、いりこが、骨をくだけてまでだしを出し切るように、先生も人生を生徒のためについてやってくれるから。 ・色々心配してくれるから。 ・自分の生徒をつねにみがいているから。 ・本当の親のように、親身に考えてくれるから。 ・適当にしゃべっているだけでお金がもらえているように思える。自分の父がかわいそうでたまらない。

6 先生は、旧国鉄の駅員のようだ。	・客（生徒）に愛想をふりまいて、何の得になるのだろうか。事務的に仕事をこなしている奴ほど、他の奴には得をしているように見える。
7 先生（特に老齢の人）は、一人異星におりたった地球人のようだ。	・年代の格差は、それぐらいに匹敵する。
8 先生は、農家の人のようだ。	・能力別クラスで、成績の良いクラスを大事にするから。
9 先生（中学、高校の）は、しゃべる教科書だ。	・例外はもちろんあるが、中・高の先生は、受験にでることしか教えてくれなかった。
10 先生は、ヤクザみたいだ。	・生徒をなぐったりするから。
11 先生は、単なるサラリーマンみたいだ。	・授業が終わるとさっさと帰るから。
12 先生は、スピーカーのようだ。	・一方的に大声でしゃべりまくるから。
13 先生は、惰性を覚えたロボットだ。	・みんながみんなそうではないが、感情のない、一本調子の授業、また、それにしか意識を置かず、ダラダラとした先生の態度が目立つから。
14 先生は、テープレコーダーのようだ。	・毎年同じことを繰り返し教えるから。
15 先生は、ヨットにとっての風のようにだ。	・生徒の将来を思うとおりにできる。特に、高校受験の時などそうだ。本人、親の意見を聞いているが、最後には先生の意見に落ち着く。本人、親も仕方がないというふうに納得してしまう。
.....	
16 先生は、良い（又は悪い）大人の例だ。	・生徒は、先生の影響を多く受ける。先生を見て育つ。
17 先生は、クレヨンのようだ。	・生徒をきれいに染めてくれる人もいれば、汚す人もいる。
18 先生（大学の）は、ラジオ講座番組のようだ。	・自分の専門分野を毎週30分も淡々と話す。義務教育で半強制的に授業を聞いてきた私には、魅力を感じる。
19 先生は、じみだ。	・情熱的に自分を出さないから。
20 先生は、神様だ。（小学校時代）	
先生は、偉い人だ。（中学校時代）	
先生は、人間だ。（高校時代）	
先生は、年寄りだ。（大学で）	

* 1, 2 回生にはB課程（教員免許取得を目ざさない者のための課程）の学生が5名ほど含まれているが、小人数でもあり、また教育学概説の授業を受けるB課程の学生は教員免許取得も目指していると考えられるので、区別せずに、教員志望の学生として扱う。

III 結果の分析と考察

1. 学年別、学部別回答数の比較

まず初めに、回答を「教師という職を肯定的にとらえている回答」「否定的にとらえている回答」「どちらでもない回答」に3分類してみる。この分類基準はかなり微妙なものを含んでいる。同じ隠喩でも好意的な内容の場合もあれば、反感を含んでいる場合もある。そういったものについては、「わけ」の記述と、その他の学校の隠喩の記述などを参照しながら、どこに分類すべきかを決定した。

学部・学年	肯定	否定	その他	計
教育1回生	11	16	12	39
2回生	10	12	13	35
3回生	12	20	13	45
4回生以上	3	9	0	12
経済全部	4	11	5	20

考察を始める前に、幾つかの条件について考えておこう。

まず、教育学部の学生を教員志望として扱ってよいかという問題である。教員免許取得を目指さない新課程の学生については上に述べたが、教員養成課程の学生についても、近年、卒業後

教職以外の職につく者が多くなってきた。しかし、教育学部新入生調査^(註4)によると、89年度教育学部新入生全体では教職希望者は47.3パーセントと低下しているものの、教員養成課程の学生を見ても教職希望者は69.5パーセントとなっている。この数は、80年度の最高時よりは20パーセントほど下がったものの、86年度以降ではほとんど低下は見られない。以上のことから、ここで回答を寄せた教育学部学生を従来通り、教師を目指す学生として取り扱うことにする。

また、教育学概説を受講している経済学部学生は商業教員養成課程の学生であり、商業教員免許取得が義務づけられているが、実態としては、教職につく者は殆ど無く、学生の意識としても教員志願は殆ど無いと考えられるので、経済学部学生一般と同じ一般企業就職希望として扱ってよいと考える。

さて、この結果についての考察に入るが、普段接している教育学部の学生達の印象、つまり学校で比較的良い目を見てきて教師を志望するに至っている者ということからいうと、否定的な悪口メタファが予想以上に多いという感じを受けた。特に、3回生以上と経済学部で、悪口メタファの割合が高くなっている。

この原因については、メタファという聞き方だと、悪口のほうが面白い作品ができるということや、世間でこれだけ教師がたたかれている状況の中で、どうしても悪口になってしまうということも考えられよう。しかし、ここで考えてみると、このメタファ記述の中には、現状を思っているものと、自分の頭の中で画いている理想の教師像のレベルでの記述とが混在しているという問題がある。肯定的記述の中でも、自分の理想を描いての記述と、現状を見ての肯定とがあるし、否定的記述にしても同じである。

次に、このこととのかかわりで、回答に見られる教師イメージの裏表について考えてみる。

2. 理想像を画くがゆえの悪口メタファ

回答の中で注目を引くのは、かなり古典的ともいえる教師像が多く出てくることである。「聖職」「灯台」「道しるべ」「方位磁石」「太陽」「鳥の母親」「こんぶ又はいりこ」などの言い方で、自分を犠牲にしてまで子どものことを考え、導く教師の像が画かれている。これは、前出の新入生調査でも裏付けられる。

1989年度新入生（この研究での2回生にあたる）を対象にした調査では、「教職は生きた人間を対象とする尊い仕事である」と問われて、教員養成課程の新入生の77.2パーセントが「そう思う」と答えている。ちなみに、それ以外の課程では63.2パーセントであり、14パーセント低くなっている。

1990年度の私の講義の一部を退職教員の先生に受け持ってもらい、その先生の「教師の仕事はいかなる報酬も求めない」という趣旨の話に寄せた学生達の感想文を読む機会があったが、多くの者が大変に高い肯定的反応を示していたことに驚いた。上のことは、このこととも符合するであ

ろう。

先にふれた久富の研究では「献身的教師像の内面化と教員志望の結合が見られる」と述べられている。

こういう教師像を持っている立場からすれば、教師の現状に対して批判し、悪口を言うことになるであろうし、あるいは控えても「十人十色だ」「良い先生もいれば、悪い先生もいる」ということになるろう。

このことが典型的に表れているのは、一人で複数の作品を作っている学生においてである。例えば、4回生以上の1「先生は聖職だ」と5「先生は横暴だ」とは同一人物による作品であり、また3回生の29「先生は知識の塊だ……知識注入者以外の何者でもない」と12「先生は芸術家だ」とが同一人物の作品である。このように、現状否定的悪口メタファは教師の理想像記述とセットにして解釈されるべきであろう。

3. 教職の「たいへんさ」「楽さ」

次に、上の古典的理想像ともかかわるが、教師という仕事が大変なものである、あるいは割にあわないものであるという記述がかなりあったことに注目してみる。例えば、1回生の34「軽自動車のように……少しのガソリン（給料）でよく走る」、2回生の31「わりにあわない職業だ……人間相手であるが、その分精神的にもしんどい仕事なのに、案外安月給だから」などに典型的にあらわれている教職観である。逆に経済的に恵まれている仕事だという記述は、全く教育学部には見られない。他方、経済学部では、「楽だ……適当にしゃべっているだけでお金がもらえているように思える」という記述が見られる。

前出の新入生調査では、「教師は休みの多い結構な職業である」「教師は経済的に恵まれている」という項目にたいしての賛成の回答は、教員養成課程の学生ではそれぞれ35.3パーセント、14.4パーセントになっており、やはり多くの学生が楽な仕事ではないと考えていることを裏付けている。他方、「教師は休みの多い結構な仕事である」と世間が思っているか、という質問には、72.5パーセントのものが肯定の答えをしており、世間ではそう思われているが自分はそうは思わない、という意識が明らかになっている。新入生調査、本調査ともに、教育学部教員養成課程の学生は、すでに教職の側に立った身内の発想をしていることを明らかにしているといえよう。

4. 制度の中の教師

久富もその研究の中でふれているが、本調査においても、子どもを抑圧する機関としての学校のエージェントとしての教師の姿が多く記述されている。

教師メタファと同時に記述された学校メタファでは、「刑務所」「兵隊養成所」「集果場」「禅寺」「工場」「鳥かご」「人間コピー機」などの形で、強制的、抑圧的、選別的な窮屈な学校の姿が、非常に多く書き出されている。他方で、その救いとしては、友達に会える楽しい場としての学校の記述も多い。「学校は軍隊……窮屈」「学校は天国……友がいる」という記述が同一人物の中に同居している典型例もある。

このことを背景にして見ると、教師メタファの中にも、そういった学校の手先としての教師の記述が多いことに気付く。「警察官」「産業ロボット」「ティーチングマシン」「オートメマシン」

などの記述である。「学校は軍隊と同じで、先生は隊列をみださず、足並みをそろえることに必死であった」という記述もある。しかしさらに考えると、これらの教師の姿が制度の中で仕方なしにやらされている姿であるという「理解」もここに窺うことができると思われる。その証拠になる明確な例として、「先生は、あやつり人形のように……上の命令通りの行動しかとれない」と「先生は、人形師のようでもある……個性を無視して、団体を操っている」という作品が、同一人物によって書かれていることがあげられよう。

ここでも、すでに学生は、教職の側にたった発想で理解を示していると言えよう。

その他、各学校段階による教師イメージの違いが大きくあることや、大学教師のありかたが教師像に大きな影響を与えていること、久富による埼玉大学教育学部学生を対象にした調査の結果と非常に類似性があること、などをこの調査から読み取ることができるが、詳しい検討は今後の研究課題としたい。

〔参考資料〕

(注1) 稲垣忠彦他編 教師のライフコース 東京大学出版会 1988

(注2) 小沢有作「学校メタファ」 産育と教育の社会史5「国家の教師 民衆の教師」新評論 1985

(注3) 久富善之編著 教員文化の社会学的研究 多賀出版 pp.37-46

(注4) 山本健慈他 教育学部入学者(1989年度)の実態調査について 和歌山大学教育研究所報 No.13 1989